



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第 125 号(2016 年 7 月 28 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

毎月発行している法学部だよりですが、8 月はお休みをいただきます。
楽しい夏休みをお過ごしください。

○60分クォーター制になって

岡山大学は今年度から60分クォーター制という大改革を実施しています。今回の改革は大学当局の強いイニシアティブで進められ、実際に講義・演習を担当するものとしてはうまくいくのかどうか不安もありました。二期目の終わりに近づいた時点で、あくまでも個人的な印象の域を出ないのですが、授業時間を60分にしたことは、思ったよりもやりやすくなったかという感じがしています。今までの講義では、教員はこの時間中にここまで話しておかないといけないというものが、とくに講義の終盤になると駆け足になりがち、しかし学生の方は集中力がきればあちこちで睡魔と戦っている者が出てくるというような状況だったかもしれません。今までも講義の途中で上手に「休憩」を入れて、学生の集中力を維持しながら、90分講義されていた先生も少なくありませんが、今回講義時間が60分になり、強制的に休憩時間が挟まれることで、お互いにいらぬ工夫をせずとも時間が有効に使えるようになった気がしています。特に私が担当した講義は、間に50分の昼休みを挟んだので、この効果は一層大きかったように思います。

これに対して、クォーター制のほうは、まだまだ工夫の余地が大きいに思います。二ヶ月に一度試験をやるというのは、個別論点の整理などにはいいかもしれませんが、全体の体系を睨みながら論点を決め議論を整理してゆくというような方法を身につけるには、断片的すぎるようにも思います。われわれが学生の頃は通年で四単位、試験は一年に一度しかなく、これはこれで試験の時は大変であったわけですが、体系的を考えるとこれくらいの長期間にわたる講義も必要な気がします。

このあたりのことは、各クォーターでの評価のあり方を考えることで対応しなくてはならないと思います。また試験時間も60分に限定されてしまうと、大きな問題をじっくり考えるような問題は出せなくなります。場合によっては、試験の時だけでも120分連続で試験を行うことを可能にするような工夫も必要かもしれません。新しいシステムのメリットデメリットを早急に見極め、メリットは大いに利用し、問題点は修正してゆかなければなりません。とにかく大きな新しい試みですが、「試み」と言っても、学生さんからすれば一度しかない大学生活です。教育は新しい「改革」をしても失敗することはゆるされない領域だと思っています。これは、大海原の真ん中でドックに入る暇もなく大改造をすすめながら航海を続けていかなければならない船のようなものです。結局、教員や学生の間で緻密に情報を交換し、日々の工夫で新しいものを軌道に乗せて行くしかないように思います。ご協力をお願いします。

法学部長 波多野 敏

- ・本メルマガは、毎月1回程度配信しています。
- ・法学部の詳細情報に関しては、HPも併せてご覧ください。
法学部 HP <http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/index.html>
- ・本メルマガには返信なさらないようにお願いします。
- ・本メルマガの登録・解除は、以下のURLにてお願いします。
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/local/mail/index.html>
- ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho-mailmaga@law.okayama-u.ac.jp まで。